

日本共産党大垣市議会議員 はんざわ多美の市政報告

第66号 2021年11月号

衆議院選挙ご支援ありがとうございました！

- 小選挙区 三尾圭司 7337 票
- 比例代表 日本共産党 4853 票

衆議院選挙では、多くのご支援ありがとうございました。

今回の選挙で、沢山の地域の方々とお会いすることができました。「党名を変えた方がいいのでは?」「当選なんてできもしないのに候補者をださないほうがいいんじゃないの?」などさまざまなご意見をいただきました。

一方で、「よく立候補してくれた」「今の政権はひどい。終わらせたい。ガンバレ」と熱い声援をいただきました。まだまだ国政で多くの議席をとるのは困難だと実感する選挙でしたが、他方で、一つ一つの選挙でしっかり政策を語り、一票一票を積み重ねていくしかないと感じる選挙でもありました。

国政の政策は、否応なく、大垣市民の政策に影響を及ぼしてきます。「垣老」も保育政策も教育政策も……大垣市議会議員として、国の悪政から、地方政治を守る砦として、中田としや議員と力をあわせて引き続き頑張っていきます。

日本共産党は、長期的な見地で、国民のいのちと暮らしを守る政策を推進していきます。

今後とも、ぜひ、ご支援お願いいたします！

大垣駅前、最終盤の演説をする
三尾圭司さん



必ず選挙に行って一票を投じてください。

僕はこの12日間ずっと会う人会う人

特に本当に傷ついて声なき声

声を挙げられない人たちに向かって言っていた。

こうして帽子被ってウクレレ持って

好き好んで歌いたかったんじゃない。

本当に傷ついて非正規雇用でポロポロになって

夢も希望も失っている人たちに

もう選挙に行ったらって意味がない。

一票入れたって意味がない。

どの政党に入れていいかわからない。

本当にそうやって苦しんでいる人たちに

この選挙、見直してほしかったんです。

あなたたちが行ってくれば

確実に社会は変わると訴えたいんです。

自己責任じゃない。政治のせいなんだと。

どうか皆さん、諦めないでください。

子どもたちのためじゃない。自分のためです。

未来の自分のためですよ。

どうか選挙に行ってくださいって。

僕は自分がとおり(当り)たいから言っているんじゃない。

皆さん自身を守ってほしい。

(中略)

そのことを誰も責任をとってくれませんよ。

自分の頭で考え、自分の目で、耳で聞いたこと

自分の信念で一票を投じようではないですか。

そうすればこの社会は、必ず変わると

僕は心の底から思うんです。

	共産	立民	社民	れいわ	国民	自民	公明	維新
高齢者医療費2倍化中止	○	○	○	○	×	×	×	×
消費税5%に減税	○	○	○	○	×	×	×	×
核兵器禁止条約の批准	○	○	○	○	×	×	×	×
C02削減目標引き上げ	○	○	○	目標示 さず	目標示 さず	×	×	×

野党共闘の枠組み

令和4(2022)年度 予算編成に係る 市長要望を行いました！



令和4年 予算編成に係る要望 (2021.10.11)

新型コロナ対策・まちづくり・子ども支援・教育関連・高齢者支援等25項目の要望を共産党議員団から行い、これに対する回答とともに、市長との懇談が1時間30分行われました。新市長の考えや方向性を率直に聞いてみました。その一部を紹介します。

◎「垣老」を守る要望

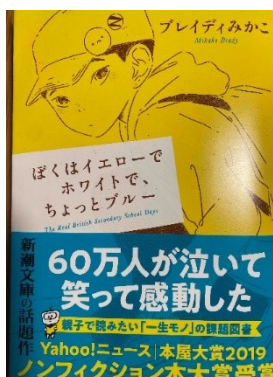
市長回答：高齢者にかかる市の給付費が増加し、サービスを支える側の市民の負担が増すことから、昨年度対象年齢を縮小した。大垣市行政改革推進審議会から今年9月に再度提言を受けているので、引き続き制度の在り方を検討していきます。

後期高齢者(75歳以上)窓口医療負担の原則2割の改悪が国会で決まっています。来年10月ごろから施行される予定。これとの整合性からすると、「垣老(71歳以上原則1割)」も後退せざるを得ないという論調になりそうです。本当にそれでよいのか。衆議院選挙の結果、国の制度施行の中止が難しくなる中、大垣市の宝「垣老」制度を守る声を議会に反映させて行かなければなりません。

◎学校トイレの洋式化を早急に進めてほしい

市長回答：さらなる洋式化については、ほかの施設整備の優先度など本市の財政状況を勘案しながら研究する。

小中学校の和式のトイレは非常に古く、子どもたちに不人気。「クラス発表での関心事の一つは、和式トイレに近いかどうか」との声があがっています。短い休憩時間に安心してゆっくりトイレ休憩がとれるよう、洋式化への優先順位をあげるよう要望を続けます。



はんざわ多美のこの1冊！「ぼくはイエローでホワイトでちょっとブルー」

1965年生まれ、25年間イギリスに住み、イギリスの「底辺」保育所で働きライター活動をされているブレディみかこさんの中学生のわが子の子育てを中心としたエッセイ。

元「底辺」中学校に通い始めた息子がノートに書いた言葉から。日本人の母親と白人の父親をもつ息子の心の「悲しみ」は読み進むうちに……。

政府の新自由主義政策の下、格差と貧困と自己責任が広がったイギリス。日本の現状と重なります。ここでいう「底辺」校は、学力が底辺だというよりは、親の所得が底辺ということ。そして「元」とつくのは、(親の所得が低い学校であることに変わりはないが)こうした公立中学の先生たちや学校の取り組み、教育内容が変化。生き生きと描かれて……。

「多様性」「無知」「差別」「いじめ」「ジェンダー」「公立学校」「アイデンティティ」「故郷」「子どもの人権」「移民」「労働者階級」などがキーワード。難しいテーマだけど、読みやすい。